

名古屋市の みどりの計画 基本計画 2030

概要版

みどりと人がきらめく

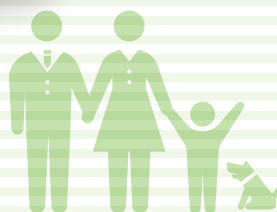
自然共生都市・なごや



Koryu



Kenko • Fukushi



Kosodate • Kyoiku



Keikan



Katsuryoku



Kanko

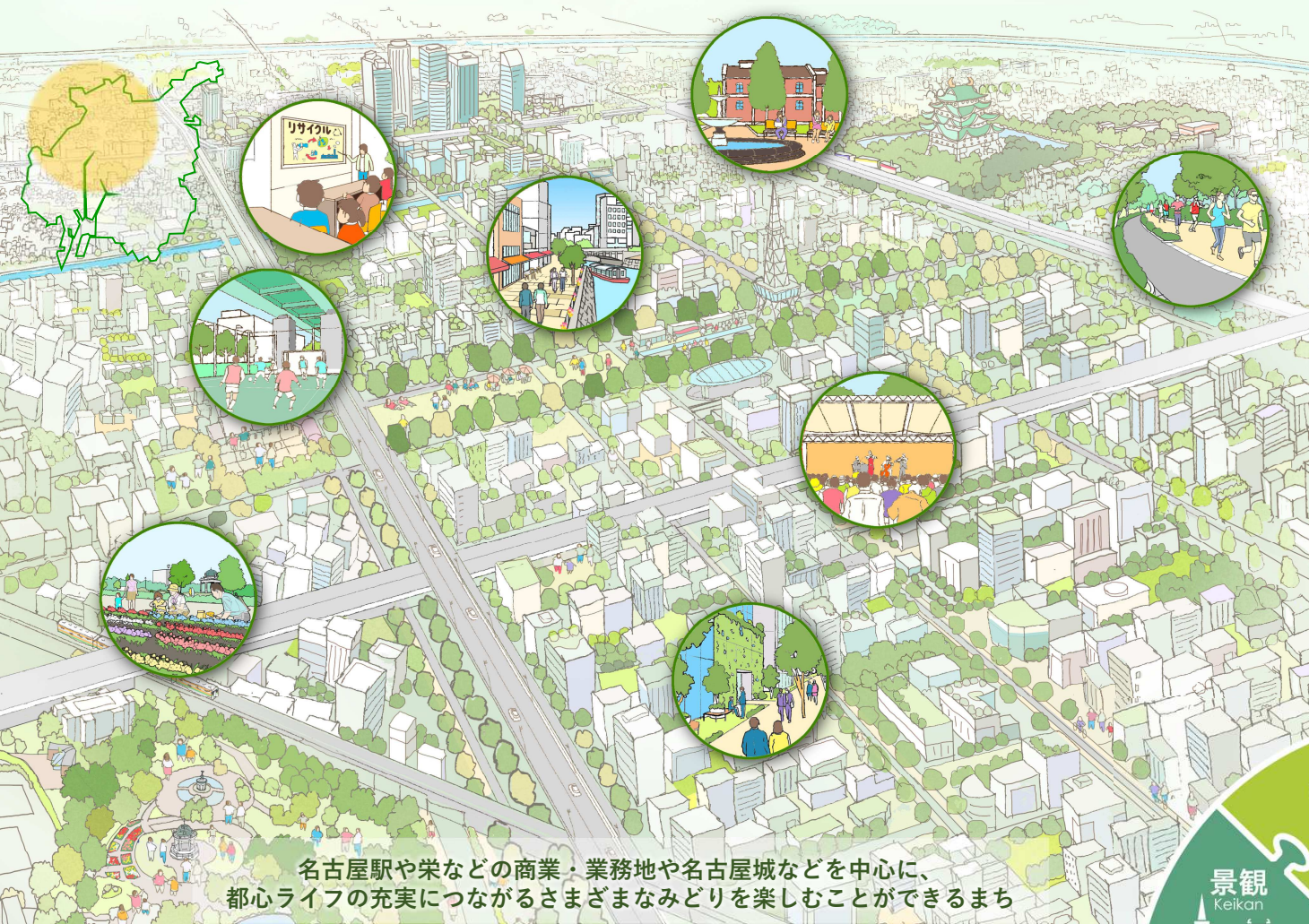


Kikikanri

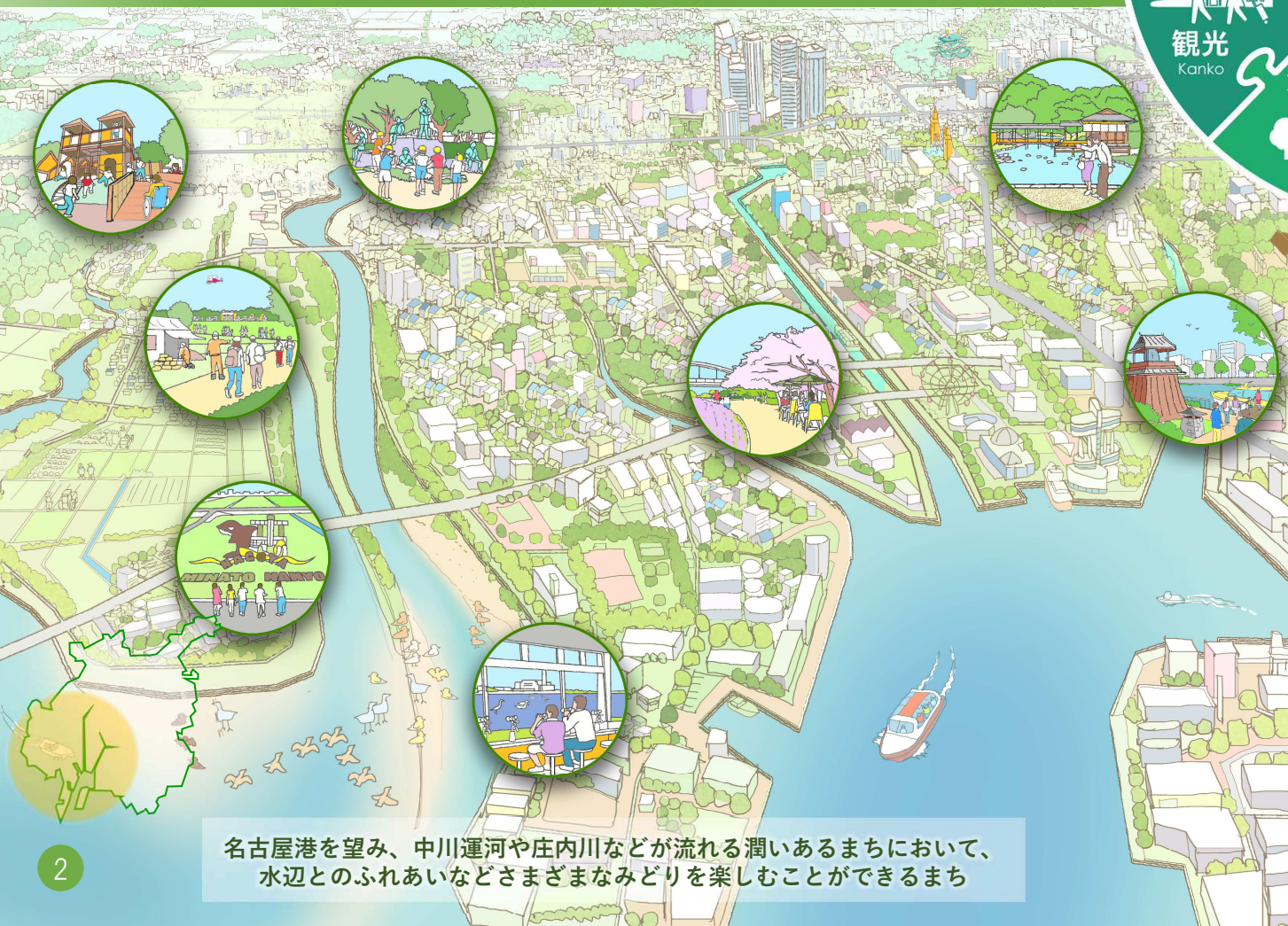


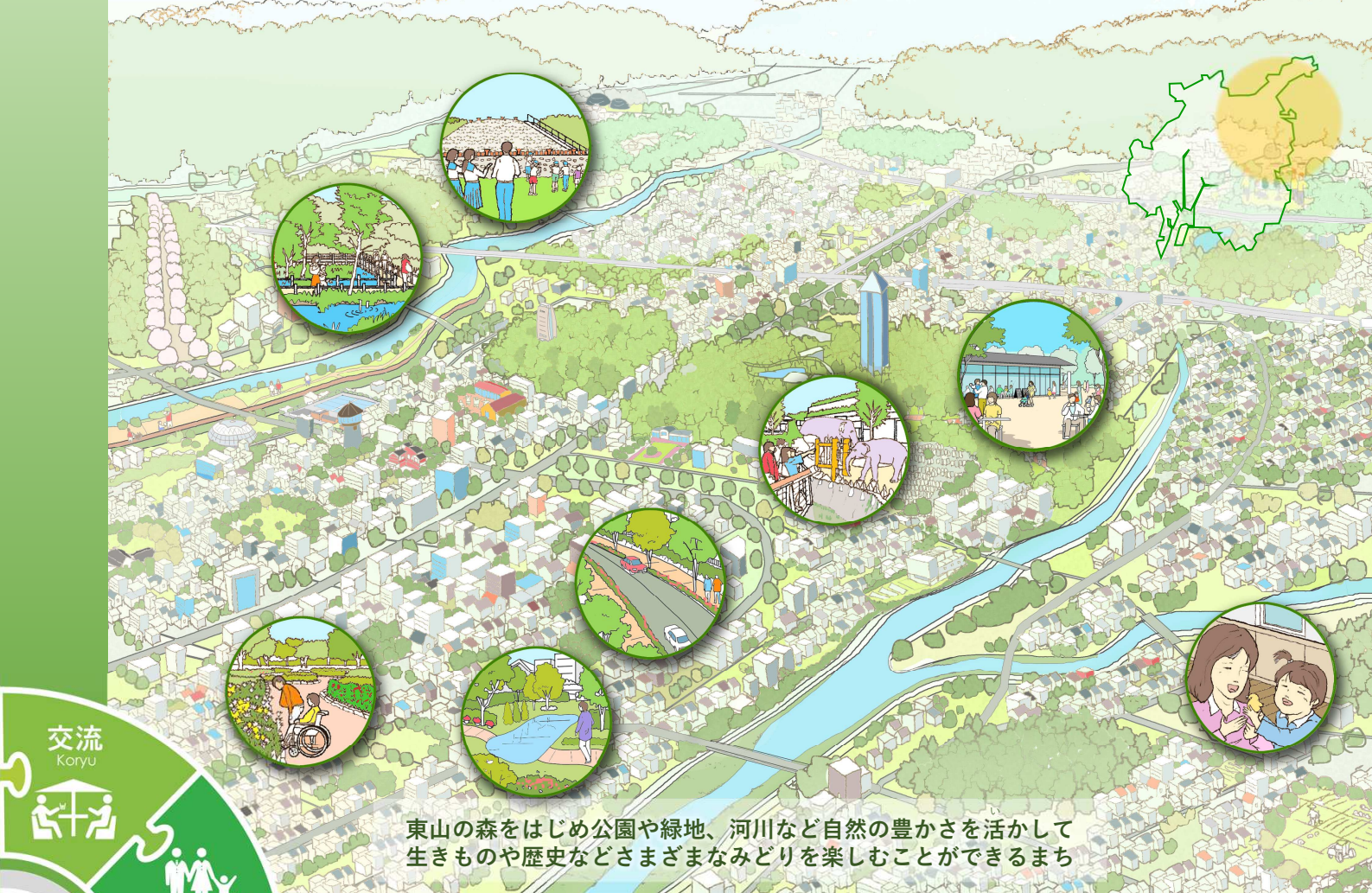
Kankyo

令和3年3月 名古屋市



みどりと人がきらめく 暮らしがもっと楽しくなる

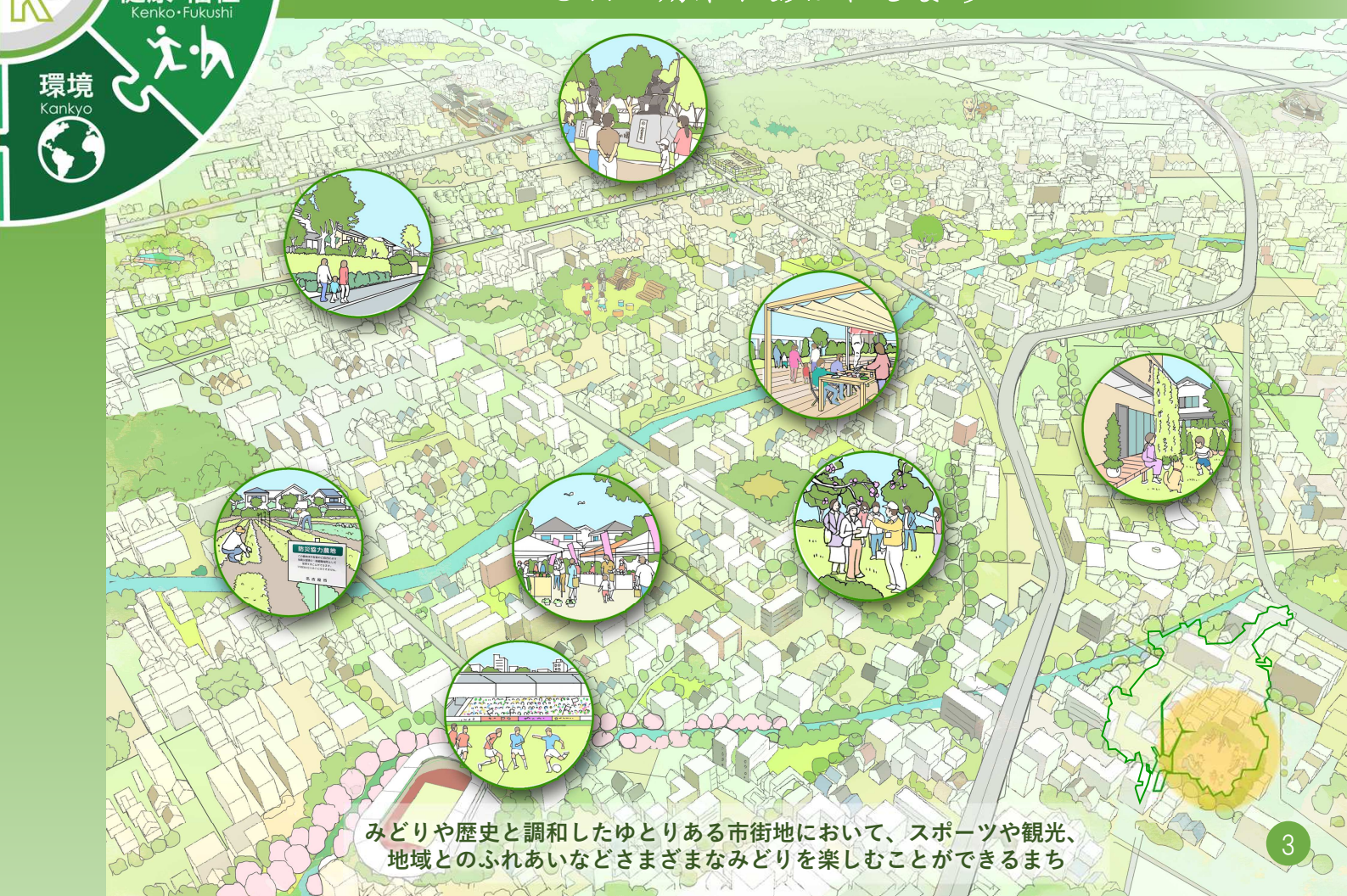




東山の森をはじめ公園や緑地、河川など自然の豊かさを活かして
生きものや歴史などさまざまなみどりを楽しむことができるまち

自然共生都市・なごやへ

8Kの効果があふれるまち



みどりや歴史と調和したゆとりある市街地において、スポーツや観光、
地域とのふれあいなどさまざまなみどりを楽しむことができるまち

みどりの 基本計画

策定にあたって

名古屋市みどりの基本計画2030とは、本市のめざすみどりの都市像と今後10年間の取り組みについてまとめた「緑の基本計画」です。



策定の目的

近年の社会情勢の変化や多様なニーズに柔軟に対応できるみどりの特徴を踏まえて、新しい時代に向けた緑のまちづくりの方向性を示します。



みどりの定義

本計画では、公園や街路樹、樹林地に加えて農地や水面なども含めて幅広く計画の対象とし、ひらがなで“みどり”と表現しています。



計画の対象区域

本市全域を計画の対象区域とします。近隣市町村とのみどりの連続性や広域的な取り組みの連携にも配慮します。



計画の期間

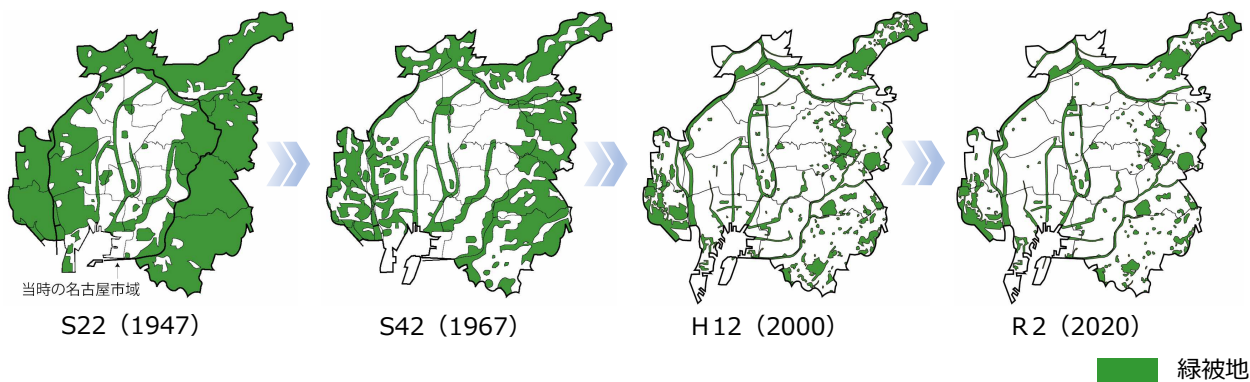
令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間を計画の期間とします。

みどりの これまで

上空から見たみどり

本市のみどり（樹林地、芝・草地、農地、水面）の変遷を時代の経過とともに見ていきます。みなさまの住んでいる地域のみどりはどのように変化しているのでしょうか？みどりが残っている場所はどのような場所でしょうか？

- 本市の緑被地※の変遷をたどると、全市的にみどりが減少しているものの近年はスピードがやや緩やかになっています。
- 緑被率※は、平成22（2010）年が23.3%、令和2（2020）年が21.5%となり、10年間で1.8ポイント（約573ha）のみどりが減少しました。



■本市の緑被地の変遷

※緑被地…樹木や草で覆われた土地のことで、名古屋市では農地や水面も緑被地としています。

※緑被率…市域面積に対する緑被地の占める割合を示したものです。

みどりの これから

今後の緑のまちづくりの展望

少子化・高齢化の進行など、みどりを取り巻く状況は変化しており、これからはみどりを「つくり、守る」ということに加えて、「育て、活かす」という視点がより重要になってきます。



みどりを取り巻く状況

少子化・高齢化の進行、リニア中央新幹線開業に伴う交流圏の拡大、日本各地で発生している風水害や南海トラフ巨大地震への備え、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響、愛知目標を継承する生物多様性の取り組みなど、みどりを取り巻く状況は変化しています。

さらに、これからのみどりには「ストック効果をより高める」、「官民連携を加速する」、「公園を一層柔軟に使いこなす」ことなどが求められるとともに、居心地が良く歩きたくなるというウォーカブルの推進も求められています。



まちづくりの課題を解決する力

今後はこれまでのみどりを「つくり、守る」という視点に「育て、活かす」という視点を加え、緑のまちづくりを進めていきます。そのため、都市・地域・社会とみどりの関係から今後のみどりに求められていることを整理します。

●都市とみどり

第20回アジア競技大会の開催やリニア中央新幹線の開業を見据え、にぎわいある空間づくりやエリアマネジメントによるまちづくり、都市ブランド形成にみどりを活用することが求められています。

都市力

●地域とみどり

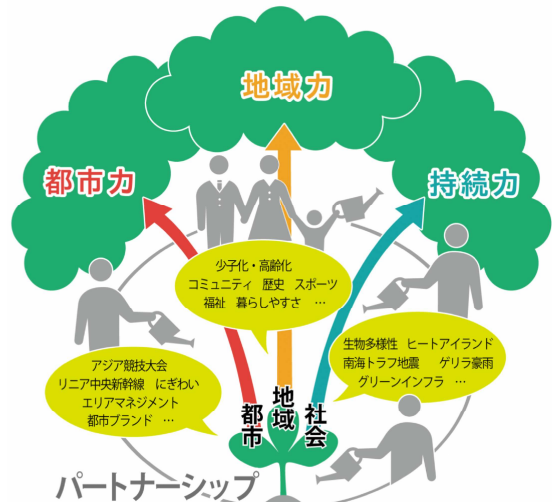
少子化・高齢化による人口構造の変化に対応しつつ、地域のニーズを踏まえ、コミュニティ形成や子育て、福祉、歴史を知る、スポーツを楽しむなど、暮らしやすさを提供する場としてみどりを活用することが求められています。

地域力

●社会とみどり

生物多様性の保全やヒートアイランド現象の緩和、南海トラフ地震や都市型水害等への備え、グリーンインフラの取り組みにみどりを活用することが求められています。

持続力



■今後の緑のまちづくりのイメージ



3つの 方向性

2030年に向けた緑のまちづくり

これからの緑のまちづくりを考えるうえでキーワードとなる
3つの力（都市力・地域力・持続力）とともに、今後の施策展開に
共通する3つの方向性を整理します。



SDGs※の達成

公園、街路樹、農地、河川、みどり
豊かな商業地や住宅地などにおいて、みどりの持つ効果が発揮されることは、SDGs
（エス・ディー・ジーズ）の達成にもつながります。そのため、緑のまちづくりから
SDGsの達成に向けてアプローチしていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



■SDGsの17のゴール

※SDGs…「誰一人取り残さない」を理念とし、限りある地球の資源を世界中の人々が公平に利用し、
未来の世代に残していくための持続可能な開発目標です。



グリーンインフラの取り組みの推進

ハード・ソフトの両面からみどりに関する施策を展開し、みどりが名古屋市のまちの
魅力を高める社会インフラになることをめざします。

- 農地・公園・緑地・樹林地などのみどりのように、存在そのものが多面的な効果を発揮します。
- グリーンインフラ技術（舗装に透水性や保水性をもたせる技術など）により多面的な効果を発揮します。
- グリーンインフラが活用された場を利用することで、多面的な効果を発揮します。



河川



グリーンインフラ技術



民有地緑化



街路樹



都市農地



干潟

西部の沖積平野

中央部の洪積台地

まとまりのある農地

都心





みどりのネットワークの形成

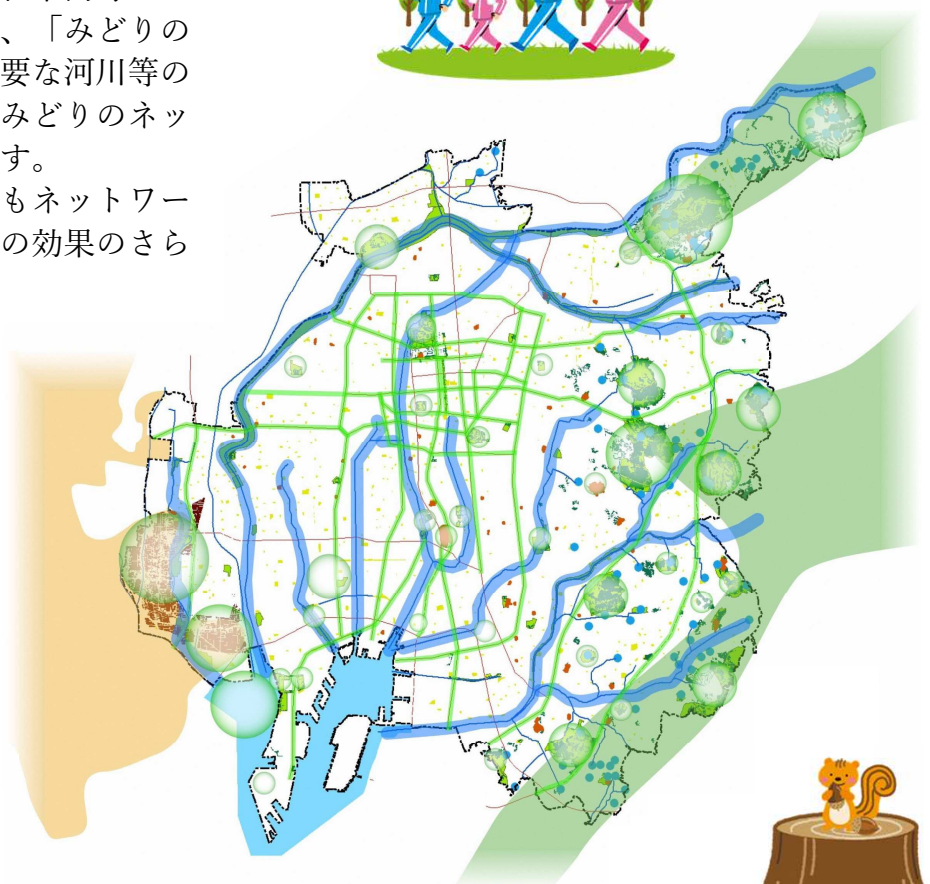
大きな公園緑地、農地、干潟等を「みどりの拠点」と位置づけ、「みどりの拠点」を結ぶ広幅員道路や主要な河川等の「みどりの都市軸」による「みどりのネットワーク」の形成をめざします。

愛知県の広域的なみどりともネットワークを形成することで、みどりの効果のさらなる発揮をめざします。

- みどりの拠点
- みどりの都市軸（道路）
- みどりの都市軸（河川等）
- みどりの骨格となる樹林地の保全
- まとまりのある農地の保全
- 歴史を伝える社寺林の保全
- 公園緑地等（4ha 以上）
- 主な幹線道路
- 河川等
- ため池
- 広がりのある農地
- 東部丘陵里山ゾーン（愛知県広域緑地計画）



0 1 2 3 4 5 km



■将来的なみどりの構造のイメージ



防災公園



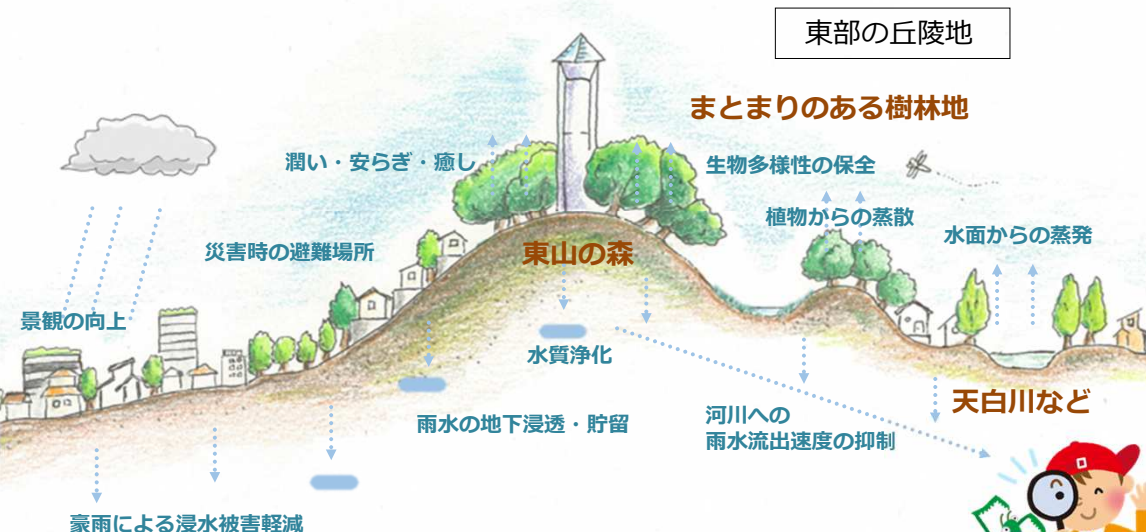
動植物園



地域の身近な公園



樹林地・湿地



■本市の地形とみどりの関係



生きもの



ため池



めざす

みどり

これからの緑のまちづくりの基本的な考え方

「みどりの都市像」－「基本方針」－「みどりの多面的な効果（8K※）」を定めて緑のまちづくりを進めていきます。

みどりの
都市像

みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや



基本方針

みどりにより
都市力を高める

魅力あるみどりの
まちを形成する



効果 観光客を呼び込み、
都市のにぎわい創出や交
流、活性化をもたらす

みどりにより
地域力を高める

身近なみどりを
活用する



効果 地域のコミュニティ
活動の交流拠点の場を提
供する

みどりにより
持続力を高める

みどりの基盤を
強化する



効果 生物多様性への配慮
やヒートアイランド現象の
緩和など環境を改善する

みどりの多面的な効果

〔8K〕



効果 季節感のある景観を
つくり、良好なまちなみ
を形成する



効果 子どもたちの健全な
育成の場や教育の場を提
供する



効果 災害時の避難場所、
都市型水害など危機管理
対策につながり都市の安
全性を向上させる



効果 都市の活力となり新
たな魅力やにぎわいをも
たらす



効果 健康・福祉、運動、
レクリエーションの場と
して、心身の健康増進な
どをもたらす



■みどりの多面的な効果（8K）

※8K… みどりの多面的な効果を“か行で始まる8つの言葉”に代表させて表現したものです。
8Kは相互に関係しながら効果を発揮し、まちの3つの力を高めていきます。

都市力 を高める 取り組み

魅力あるみどりのまちを形成する

鶴舞公園、名城公園、久屋大通公園、東山動植物園、徳川園など名古屋を代表する公園の利活用の活性化や、みどりがまちを魅力的なものにする取り組みを進めることで都市力を高めていきます。



<プロジェクト1> まちを元気に 公園魅力向上プロジェクト

民間の自由なアイデアや活力を取り入れながら、公園施設などの再整備や運営管理、魅力的なイベントの実施などに取り組みます。

このプロジェクトにより、市民や名古屋を訪れる人が公園で充実した時間を過ごし、満足度が高まることで、公園を中心にまちの魅力を向上させ、なごやの都市力を高めていきます。

【目標（令和12（2030）年度）】

●公園の満足度

鶴舞公園 55%

名城公園 60%

●民間活力の導入による 整備及び運営管理（累計）

令和12年度までに 10公園



みどりを回遊して なごやを“観光”する

代表的な公園緑地や庭園などの魅力アップとまちを快適に回遊できる仕組みを構築していきます。

【取り組み例】

- 名古屋を代表する公園の再生
- まちの回遊性を高める移動手段や施設の充実



みどりの“景観”を 魅力的にする

沿道のみどりや街路樹などの質を高め、まちの景観の魅力アップをはかります。

【取り組み例】

- シンボル並木の形成
- まちの景観づくり



みどりが“活力”を生み 魅力を向上する

みどりに民間の有する自由なアイデアやパワーなどを取り入れて活力を生み出す場にします。

【取り組み例】

- 公募設置管理制度（Park-PFI）の活用
- なごやかベンチ、スポンサー花壇等の展開



地域力 を高める 取り組み

身近なみどりを活用する

地域の公園などで、誰もがもっと使いやすく、もっとやりたいことが実現できるような取り組みを進めることで地域力を高めていきます。



<プロジェクト2> みんなでつくろう 地域の庭プロジェクト

公園における子育て支援施設の導入やバリアフリー化などのハード面に加えて、地域のコミュニティ形成や公園の利用ルールづくりといった公園に関わるソフト面について、地域と行政が一緒になって考えていくことにより、地域の公園をみんなで育て、公園が地域の庭となることをめざします。

このプロジェクトにより、子どもがみどりの中で伸びのびと成長したり、公園を中心にした世代間の交流や健康な暮らしなどを実現することで、なごやの地域力を高めていきます。

【目標（令和12（2030）年度）】

●公園の利用頻度

月1回以上の人の割合 65%

●地域に身近な公園の再整備

10年間で 10公園

●主な緑のまちづくり活動に携わった市民の延べ人数

10年間で 34万人



みどりを通じて “交流”の輪を広げる

地域の住民や市民団体などと連携した公園の利活用・維持管理、農の取り組みなどを通じて地域の交流の輪を広げていきます。

【取り組み例】

●身近な公園の利活用の推進 ●農の拠点からの情報発信



“子育て・教育”の場 としてみどりを活用する

みどりを知り、ふれあう中で、子どもの成長や人々の学びを応援できる場を充実していきます。

【取り組み例】

●子育てしやすい公園づくり ●みどりの学習機会の拡大



“健康・福祉”の場 としてみどりを活用する

子どもから高齢者、障害者など、幅広い市民が健康づくりやスポーツに利用できる場をユニバーサルデザインの考え方を踏まえて充実していきます。

【取り組み例】

●健康器具系施設の導入 ●公園のバリアフリー化



持続力 を高める 取り組み

みどりの基盤を強化する

安心・安全で良好な都市環境の形成や持続可能な社会の実現をめざしてグリーンインフラの取り組みを推進することで持続力を高めていきます。



<プロジェクト3> 未来へつなぐ 持続可能なまちづくりプロジェクト

みどりの保全や新たなみどりの確保に引き続き取り組むとともに、グリーンインフラの考え方が社会インフラ整備のさまざまな分野に浸透するように取り組みを進めていきます。

また、防災公園の整備や災害対応型施設を活用した防災訓練を地域と連携して進めるなど、災害に強いまちづくりを進めていきます。

このプロジェクトにより、みどりの基盤を強化することで、なごやの持続力を高めていきます。

【目標（令和12（2030）年度）】

●名古屋のみどり	●防災公園の整備（10年間）	●新たに確保されたみどりの面積
多いと思う人の割合 70% 満足している人の割合 70%	整備完了 3公園 新規事業着手 2公園	10年間で 400ha



自然“環境”や生活“環境” をみどりで豊かにする

樹林地や湿地、都市農地などの今あるみどりを保全するとともに、森づくりや緑化などみどりの創出にも取り組み、自然環境や生活環境をより一層豊かなものにしていきます。

【取り組み例】

- 協働による樹林地等の保全
- 都市農地の保全
- なごやの森づくり
- 民有地緑化の促進
- 生物多様性保全活動の推進



“危機管理”効果を みどりで発揮する

震災や風水害などに対する防災・減災機能など、みどりを通じて危機管理効果を発揮することによって、安心・安全なまちづくりを進めていきます。

【取り組み例】

- 公園等の防災機能の充実（防災公園等）
- 公園施設・街路樹等の計画的な更新等
- グリーンインフラの取り組みの推進



※ 公園では防災訓練が実施され、花壇や植樹帯から雨水が地下に浸透しています。みどりによる防災・減災機能が安心・安全なまちの実現に寄与しています。

計画の
推進

計画の実現に向けて

本計画で位置付けた取り組みは、産学官民（事業者、教育・研究機関、行政、市民・NPOなど）のパートナーシップにより推進するとともに適切な進行管理により計画的に進めていきます。



産 事業者

- ・みどりの整備、維持管理を行う
- ・みどりを活用して社会や地域に貢献する
- ・資金や技術のみどりの分野で活用する

学 教育・研究機関

- ・みどり分野で活躍する人材を育成する
- ・みどりの学び場づくりに関わる
- ・みどりの知識を蓄積して情報発信する
- ・知識や技術のみどりの分野で活用する

官 行政

- ・みどりの整備、維持管理を行う
- ・みどり分野の制度などを構築・運用する
- ・みどりの情報を積極的に発信する
- ・パートナーシップ推進の仕組みを整える

民 市民・NPOなど

- ・みどりの利用者となり、魅力をみんなに伝える
- ・身近な場所でみどりを大事にする
- ・みどりのイベントに参加する、運営する
- ・みどりを守り、育てる担い手となる

パートナーシップ

みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや



進行管理

計画（PLAN）、実行（DO）、評価（CHECK）、公表（PUBLICATION）、市民意見の把握（LEARN）、改善（ACTION）の6サイクルで計画を進めます。

評価は、概ね5年ごとに行い、施策や事業の進捗状況を3つの指標で総合的に把握します。



■進行管理の6つのサイクル

アウトカム

成果指標

緑のまちづくりの中で、**質的目標**となる指標。主にアンケートなどで把握していきます。

アウトプット

達成指標

緑のまちづくりの中で、**量的目標**となる指標。主に事業の実施状況などで把握していきます。

共有

共有指標

産学官民がみどりの**現状を把握・共有**して、パートナーシップによる緑のまちづくりを進めていくための指標。主に緑被率や市の総合計画の指標などで把握していきます。